

同窓会 だより

信州大学医学部保健学科同窓会事務局
School of Health Sciences, Shinshu University
第15号 2017年 10月



—目次—

川上由行先生 同窓会会長の挨拶	2
濱田州博先生 学長のご挨拶	3
金井誠先生 同窓会名誉会長のご挨拶	4
新入教員のご挨拶	5
夏期海外研修報告	5
平成28年度活動報告	8
卒業生の声	10
総会記録	12
平成28年度事業報告	13
平成29年度事業計画	14
同窓会役員	15
信州大学医学部保健学科同窓会会則	15
編集後記	16

2017
第15号

金井誠保健学科長の総会挨拶を大阪からライブで中継!!!

信州大学医学部保健学科同窓会会長 **川上 由行**
(信州大学名誉教授/医学部特任教授(研究))

保健学科同窓会総会が、6月24日の第四土曜日に開催されました。この日は大阪へ学会出張でお留守の筈なのに、金井保健学科長(同窓会名誉会長)のご挨拶の「生」映像と「生」音声は、なんと大阪からライブで会場に届けられました。

金井教授の強いご意向に基づくこの企画の成功の陰には、百瀬教授を中心とする同窓会幹事による綿密な事前準備と入念な予備試験があったのです。本年から厚生委員会と協同で準備に当たることになり、旭総合研究棟9F会議室には、厚生委員長長の伊澤淳教授が、慣れない準備作業に朝から勤しんでいる姿もありました。

大阪という遠隔地からのライブ中継は初の試みで、慎重な上にも慎重に事前検証を行いました。万が一の予期せぬハプニングへの対応も想定し、予め、ビデオでのメッセージ録画も作成して臨みました。

幸い、ライブ中継は見事に成功して出席者からの喝采を浴びました。録画撮影した映像音声は、披露される機会を奪われてしまいましたが、金井教授の同窓会総会への篤い想いが伝わる挨拶となりました。

母校と一体で総会を開催している同窓会は、信州大学では保健学科だけです。7月に開催された「信州大学同窓会連合会役員会」と、「信州大学校友会理事会」の其々の中で、今年の同窓会総会では、大阪へ学会出張中の金井学科長から、ライブ中継でご挨拶を賜ったことを報告させて戴きました。多くの称賛と羨望の声が発せられたことを、皆様にお伝えさせて戴きます。

いよいよ、松本高等学校開学100周年、信州大学創立70周年の2019年が迫って来ました。信州大学70周年と言うことは、医学部も70周年です。2019年の開学記念日(6月1日)の記念式典開催を軸に、信州大学全体の括りでお祝いしよう、というのです。

同窓会連合会は、記念事業実施委員会の一実行組織として、多大な関与貢献が期待される中、代表と副代表が揃って同窓会長を退任することから、連合会代表、副代表の交代を申し出る事態になりました。

しかし、記念事業の一翼を担う同窓会連合会の重要性に鑑みて、同窓会長を交代しても記念事業の終了まで

は、連合会代表・副代表の任に留まって戴くことに落ち着き、工学部の神田代表、医学部医学部の勝山副代表、教育学部の赤羽副代表が再任されました。

さて、4月4日(火)に入学式が挙



行され、保健学科15期生、大学院博士前期課程11期生、そして博士後期課程9期生を迎えて新年度が始動しました。

保健学科に入学された新入生諸君には、掛け替えのない時間を大切にしながら、其々の目標に向かって邁進されていることと思います。大学院生の諸君には、主体的な取り組みこそが、真理の探究に直結し、そこに知の創造の喜びが生まれ、それが社会貢献に繋がることを知って欲しいと思います。そして、教員には、そんな学生たちを全身全霊で支援して下さいようお願いします。保健学科同窓会も、母校が一層の輝きを放っていくよう、全力で応援していきます。



信州大学医学部保健学科同窓会会報 学長のご挨拶

信州大学 学長 濱田 州博

日頃より保健学科同窓会の皆様には、一方ならぬご支援、ご協力を賜りまして誠にありがとうございます。まずは厚くお礼を申し上げます。

さて、平成31年（2019年）には、信州大学創立70周年、旧制松本高等学校創立100周年を迎えます。信州大学の前身校の一つである旧制松本高等学校の歴史を信州大学の歴史とともに振り返る機会とし、歴史をもとに次代の信州大学を考えたいと思っております。平成29年4月には、大学史資料センターが附属図書館に設置され、各学部同窓会等との連携により、信州大学の歴史資料の体系的収集・整理・保存を行い、デジタルアーカイブを構築していきたいと考えております。保健学科同窓会の皆様にもご協力いただければと存じます。

ところで、平成28年度から第3期中期目標・中期計画期間が始まりました。昨年のご挨拶でも申し上げましたが、信州大学は、3分類の内、重点支援①を選択し、先鋭領域融合研究群を中心とした世界的な教育研究と多分野における地域的・全国的な教育研究拠点を構築することを目標に掲げております。ここで、信州大学が目標を達成するために掲げた3つの戦略の評価について紹介させていただきます。平成28年度における研究に関する戦略1、教育に関する戦略2、地域貢献に関する戦略3の評価はそれぞれC、C、Dで、運営費交付金が約300万円減額されました。これに対して、平成29年度における評価は、A、B、Bとなり、運営費交付金が約600万円増額しました。

また、世界的な情報サービス企業であるトムソンロイター社が保有する学術論文及び特許情報を基にアジアで最もイノヴェイティブな大学ランキングTOP75が発表されております。昨年2016年のランキングでは、本学が39位（日本の大学の内14位）にランクインしました。先日発表された2017年のランキングでは、信州大学は44位と若干順位を下げました（日本の大学の内14位は変わりませんでした）が、引き続きランクインしたことは良かったと感じています。本ランキングは、科学の進歩、新技術の発明、グローバル経済の推進に最も貢献した教育機関を明らかにする試みとのことで、重点支援①の国立大学法人では、信州大学と熊本大学の2大学のみがラ

ンクインしております。今後とも地道に科学の進歩や新技術の発明に寄与できればと思っております。

平成29年は干支で言うと丁酉（ひのととり）です。酉のつく年は

運気や人を取り（酉）込み、商売繁盛につながると言われております。また、今までがんばってきたものの成果があらわれる年とも言われております。すでに今年も3分の1を残すのみですが、信州大学の取組が着実に成果をあげ、目標に近づいていればと思っております。

大学は、在学生や教職員だけではなく、様々なステークホルダーの方々とともに歩んでおります。同窓会は最も重要なステークホルダーであり、皆様とともに歩んでいける大学になることを目指したいと思っておりますので、これまでと同様のご支援、ご協力をお願い申し上げます。



同窓会の皆様へ

信州大学医学部保健学科同総会名誉会長 **金井 誠**
(信州大学医学部 保健学科長／看護学専攻 小児・母性看護学領域 教授)

保健学科同窓会の皆様には、平素より在校生の教育および学科運営に多大なご理解とご支援をいただいております。この場をお借りして心から御礼申し上げます。

このたび、本年4月より3年間の任期にて、2期目の保健学科長を拝命することとなりました。従来取り組んできました大学改革の方向性を継続するとともに、従来以上に保健学科の実績を認めていただけるような事業の推進を図り、さらなる発展のために努力したいと考えております。

学科長として1期目の3年間では、北校舎・中校舎の耐震改修と地域保健推進センターの設置事業を終えた後、耐震改修工事の対象外であった南校舎の改修にも着手するため、近年における保健学科の教育・研究・地域貢献活動と、南校舎改修の必要性を大学本部に強く主張し、平成27年度に外壁改修工事を実施することができました。加えて昨年度から今年度にかけては南校舎内の教育環境整備を部局重点事業の一つに位置付けてアピールしたところ、厳しい財政事情の中で、本事業の重要性を認めていただくことに成功し、南校舎も新しい環境での教育・研究環境を整備中です。なお本年度の本事業は、同窓会から毎年頂戴しております専攻配分の教育・研究経費も自己財源とさせていただきます。重ねて御礼申し上げます。ご来校いただいた際には、是非とも新しい校舎や新設した中庭などをご覧いただきたく存じます。

また、地域保健推進センターの地域貢献活動として、平成26年秋から、市民が参加できる健康講座を春と秋に開講しております。毎回非常に好評で、継続した開講を希望する声を数多く頂戴しております。本年度も5月から7月にかけて「睡眠と健康」をテーマに4回開講いたしました。秋期も10月から11月にかけて「骨と関節の老化のおはなし」をテーマに4回の開講を予定しております。また秋期は信州医学振興会とタイアップして、講座内容をケーブルテレビにて配信する企画にも取り組む予定です。皆様方も是非参加してみてください。

さらに、保健学科と附属病院看護部とが主体となって、平成26年度から実施している文科省・課題解決型高度医療人材養成プログラム『実践力ある在宅療養支援リーダー育成事業』も順調に進んでおり、昨年12月に第

1期生修了生51人を輩出することができました。本年度から来年12月まで第2期の開講中ですが、今回も52名の受講生が研修中です。在宅療養で質の高いケアを提供する看護師の育成を目指す本事業は、

国や多くの関連施設から大きな期待を受けています。

また、本年度からは、長野県の開発した大麦摂取による健康増進効果の科学的検証に関して、長野県との共同研究を始めております。

以上のように、保健学科では毎年新たな取り組みを積極的に展開しており、さらなる発展に尽力していく所存です。同窓会の皆様方には、一層のご支援とご指導を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。



新入教員のご挨拶

ご挨拶

矢崎 正英

(検査技術科学専攻 生体情報検査学領域)

今年度から高昌星教授の後任として、検査技術科学専攻生体情報検査学領域の担当として着任いたしました。信州大学医学部を卒業後、信州大学医学部第三内科（現、脳神経内科、リウマチ膠原病内科）に入局し、平成26年からは信州大学に新設された先鋭領域融合研究群バイオメディカル研究所神経難病学部門に所属して、主にアミロイドーシスという異常蛋白の沈着病の解析研究に従事してまいりました。この研究所は理学療法学専攻の斎藤直人教授が研究所長であり、そのようなご縁もあり、この度保健学科の



教員として働かせて頂くことになりました。大変光栄でありますとともに、このような機会を与えて下さった諸先生方に心より感謝申し上げます。

着任して早一ヶ月が過ぎようとしておりますが、依然仕事の全体像が掴めておらず、他の先生方にご迷惑をおかけするばかりであり、教員会議に出席しても1人浮いたような状態ですが、徐々に自分のペースを掴んで慣れていけたらと考えております。今後は、教育活動はもちろんのこと、研究活動につきましても今まで以上に発展させ、高いリサーチマインドを持った学生を1人でも多く育て上げることができれば本望と考えております。諸先輩方におかれましてはご指導ご鞭撻の程、宜しくお願い申し上げます。

夏期海外研修報告

オーストラリア

カーティン大学

看護学専攻3年 奥原 理紗

人生で初めてのホームステイは自分の生活を見つめなおすきっかけともなりました。オーストラリアでは電気料金が非常に高いようで、基本的に電気をつけるのは一部屋のみでした。「使う時だけつけて、すぐに消す」ことが、一般的です。そのため家族全員でリビングに集まり、1つの空間に家族みんながいることが、毎日当たり前でした。最初は、自分の部屋にいたい気持ちもありましたが、家族全員で集まると、自然と会話をするようになり、コミュニケーションがとれていることに気が付きました。現代の日本は家族の個人化がキーワードとして挙げられていると思いますが、オーストラリアでは、家族が一緒に過ごし、時間を共にすることが大切にされているのだとわかりました。また、オーストラリアでは水も貴重に扱われています。水道水の出っぱなしなど絶対しませんし、シャワーもできるだけ短く済ませるように子供たちは教育されていました。日本での自分の普段の生活が、いかに無駄が多く、消費エネルギーが大きいのか、実感させられました。

私は便利な生活を手に入れた代わりに、人とコミュニケーションをとることや、相手の立場や環境保全を考

えることを怠ってしまっていた気がします。原点に戻って、自分の生活習慣を改善することを意識し、これから生活していきたいです。

また、「日本人は言葉の壁を感じすぎている、どんどん話してみよう！」とホストファミリーに教わり、積極的に周りの人々に話しかけることができた2週間でした。そこから始まる出逢いも多くありました。今まで、英語でコミュニケーションをとることを避けて通っていましたが、しかし、ジェスチャーや相手の表情、声の出し方、知っている単語などでなんとか言っていることが推測できる、ということがわかり、もっと積極的になって多くの人と話す楽しさを感じていきたいと思いました。これからは恐れず、そして楽しく英語と触れ合っていきたい



と思います。

夏期海外研修を、仲間と協力しながら無事に終えることができ、準備とご指導をしてくださった先生方はじめ、同窓会の方々には感謝でいっぱいです。今年は帯同教員がいないということで不安な気持ちもありましたが、だからこそ、より一致団結することができたのではないかと思います。ありがとうございました。

オーストラリア

カーティン大学

理学療法学専攻2年 三浦 遼果

2017年8/4～8/20の約二週間、保健学科で開催された海外研修でオーストラリアのパースへと赴きました。参加者は総勢20人、引率教員はなしで、学生のみで組み立てていただきました。海外研修中には現地のカーティン大学でのEnglish classを受けることができ、現地の医療関係の施設も見学させていただいたため、とてもいい経験になりました。これらの内容、そこから学んだことや感じたことを以下に記します。まず、カーティン大学での英語の授業では、全ての活動で、英語について学べただけでなく、オーストラリアの文化や医療についても同時に学ぶことができたのがとても良かったです。

Communication Englishで学んだ英語は家に帰った後のホストファミリーとの会話に実際に利用することができ、その実践によってより強く英語を記憶することができました。授業は英語で行われたため、最初は聞き取りがとても大変でしたが、授業が進むにつれて聞き取りが楽になり、自分の成長が感じられたことが嬉しかったです。授業では日本よりも参加型の内容が多く、積極的に



英語を話すことができましたと思います。それによって少しずつではあるが英語を話すことに対する不安がなくなっていったように感じました。今まで義務教育の受験のための英語から抜け出せていなかったのが、今回多くの実践の機会をいただいたことで実用的な英語を少しではあるが学べたと思いま

す。そして何よりも実用的な英語を学ぶ方法を学べたので、これからの英語の学習に大きな利益をもたらす海外研修になりました。次に病院などの施設見学では、日本よりも理学療法が進んだオーストラリアで、最先端の施設や地域の中心となる病院を見学できたことはとても貴重な機会でした。日本と同じ部分を見ることによって大学で学んだことの再確認と、見たことの無い技術・設備を見ることによって新しい知識の吸収との両方をできたことがよかったです。また、スポーツ施設を訪れた際は日本の理学療法士もスポーツ文化の発展のためにもっとできることがあるのではないかと感じました。最後に、研修を通して成長できたと感じるころは、不安な英語で生活する中でも色々なことに恐れず挑戦できたことです。引率無しでの海外という部分から、積極的に英語で会話を行ったこと、様々な体験をしたことすべてをこれからの自分の自信としていけるとと思います。今回の研修をここで終わらせず、これからの生活に生かしていきたいです。

左下の写真はオーストラリアのスポーツ施設であるWAISを訪れた時のものです。

オーストラリア

カーティン大学

作業療法学専攻2年 小田切 みおり

私たちは、患者の自立した生活を助ける自助具を1万円ほど所有しているIndependent Living Center WA、西オーストラリアでも最大規模の保健医療の教育施設を持つRoyal Perth Hospital、カーティン大学内にある医療実習室などを見学させていただきました。

Independent living centerには、様々な自助具があり、モーター付きの電動車いすや、可動式の流し台や食器棚などの大きなものから、自由に形を変えられるスプーンや、少しの力で注ぐことが出来る湯沸かしポットなど、生活に使う小さなものまで、最新の自助具を実際使用することが出来ました。授業で見たことのあるものもあれば、日本ではあまり見ないような器具もありました。オーストラリアでは、買い物をしたり街を歩いたりしていると、モーターを積んだ電動車いすに乗った方をよく見かけました。また展示物の中には、缶やボトルを開封するときに使うモーター式の器具がありました。これらを見て、オーストラリアでは日本よりも電動のものが多く感じました。

Royal Perth hospitalでは病院見学と教育施設の見学をしました。病院は新しく出来たもので、庭には緑が多く

シンガポール海外研修

検査技術科学専攻3年 村里 洋輔

植えてあり、患者がいつも光を取り入れることが出来るように、どの病室にも大きな窓がある造りになっていました。また、病院内には木目調のオブジェなどもあり、近代的でありながら安心感のある病院であるという印象を受けました。教育施設には、本物さ



ながらの患者の人形がベッドに横たわっていました。成人男性、妊婦、新生児など異なるパターンの人形も用意されていました。これらの人形は、遠隔操作で喋ったり、咳をしたり、血圧や脈拍までも変えることが出来るもので、実際の患者により近い状態で実習を行う事が出来ます。病室にはマジックミラーが設置されていて、隣の部屋から教官が人形を操作し、他の学生が実習の様子を見学することも出来ます。授業では実習中の学生の動きをビデオで録画して、その後フィードバックを全体で行ったりするそうです。

カーティン大学内の実習室も同じ人形が用意されていました。規模は小さかったものの、医学系の学生はみなこの実習室で患者と接するための実習を行うそうです。注射や点滴を打つことも可能で、様々な医療器具が揃っていました。実際の病院と全く同じような病室で人間の動きに近い人形もあり、素晴らしい実習室を持っているのだと驚きました。

今回このような施設を見学させていただけたことは、今後の学びの可能性を広げる機会となりました。



8月4日から8月13日に行われたシンガポール研修に参加しました。少人数で説明を聞くことができ、病院の説明担当の方と対話をしながら積極的にプログラムに参加することで、とても密度の濃い時間を過ごしました。

病院見学ではシンガポール全体の医療の中心となる国立の大病院であるSGHで最新の医療設備、地域の中核病院であり患者の85%が65歳以上であるBVHで緩和ケアとのOT・PTの関わり、女性と子供専門の大病院であるKKHで妊婦や小児への配慮を見学することで、シンガポールの医療を様々な方面から見ることができました。SGHでは実際の臨床検査技師の業務を見学することができ、3分程度で自動解析できる装置などの最新設備からグラム染色などの基本的なことまで見ました。医師の部屋が併設されており、検体の管理や他の部署との連絡を行う電話係がいることで連携しやすくなっていた点が印象的でした。BVHでは各エリアにOT・PT用の部屋があり、入院患者に対してOT・PTが積極的に治療に参加している様子を見ることができました。KKHでは体温の自動測定、リストバンドでの患者の行動範囲の制御などの少人数の看護師でも多くの患者を管理できるシステムや、騒音センサーやオープンな構造のナースステーションなどによる妊婦の周りの環境への配慮、小児病棟での子供の遊び場の設置など、専門病院特有の工夫を見ることができました。

OTやPTを育成する学科を持つ工科大学であるSITではシンガポールにおける資格の取得方法を学ぶとともに、大学の教育でグループディスカッションによる発言力やコミュニケーション能力の向上、病院実習による実践的な教育が重視されているなどの特徴を知ることができて興味深かったです。

9日間という短い期間でしたが、日本とは違うシンガポールの医療を様々な方面から見ることができ、今後の国内での病院実習への興味が強くなりました。それぞれの環境にあっ



た工夫を理解することで医療に関する理解を深めると共に、シンガポールで良かったと感じた点を日本の現場にも活かしていきたいです。また美術館などで文化についても学ぶことで、普段海外の文化との触れ合いが少ない国内では培えない国際意識を高めることができました。このような貴重な機会を与えてくださった教員の方々をはじめとするこのプログラムに関わった全ての方への感謝を忘れずに、今後の勉学や実習に生かしていきたいと思えます。



平成28年度 活動報告

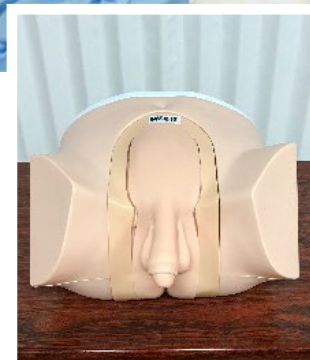
平成28年度学習環境整備、看護学専攻への助成による購入物品の報告

同窓会の助成により、看護学専攻の教育に利用できる物品が充実いたしました。御礼申し上げます。

WHOの勧告で水銀血圧計が使用できなくなることにあたり、今回の同窓会からの助成でアネロイド血圧計に変更が可能となりました。その他、シミュレーターや演習・実習に必要な物品、講義で使用するDVDなどの物品を購入しました。



万能型看護実習モデル(成人看護学領域)



黄疸計



「とっても静かな回診車」という回診車



DVD



アネロイド血圧計15台

採血・静脈シミュレーター



高教授退官記念講義

平成29年2月7日(火)

平成29年3月末をもって、検査技術科学専攻の高昌星先生が退職されました。2月7日(火)には最終講義「信州大学における多発性硬化症研究の40年」が、旭総合研究棟 9階講義室において行われました。当日は、学内・学外関係者大勢の方々のご参加をいただきました。



卒業祝賀会・優秀学生表彰

平成29年3月21日(火)

平成29年3月21日(火)に旭会館一階にて卒業祝賀会を開催しました。金井学科長と各専攻の成績優秀学生のみなさんです(写真左から 作業療法学専攻・芳賀彩織さん 検査技術科学専攻・谷口唯さん 看護学専攻・保科博花さん 理学療法学専攻・渡邊諒さん)。



大学院修了祝賀会

平成29年3月21日(火)

平成29年3月21日(火)に大学院修了祝賀会を開催しました。博士後期課程修了者は3名で、学位論文は次の通りでした。

・阿部 裕一さん

Availability, usage, and factors affecting usage of electrophysical agents by physical therapists: a regional cross-sectional survey

(物理療法機器の保有状況、使用状況、および使用に影響を与える要因：理学療法士に対する調査研究)

・松清 あゆみさん

Relationship between muscle-tendon length, range of motion, and resistance to passive movement in children with normal and increased tone

(筋過緊張を呈する児と定型発達児におけるMAS (Modified Ashworth Scale)と5kgの伸張刺激前後での筋・腱長と関節可動域の変化との関連性)

・小宅 一彰さん

Validity of gait asymmetry estimation by using an accelerometer in individuals with hemiparetic stroke (脳卒中片麻痺患者における小型無線加速度計を用いた歩行非対称性評価の妥当性)

特別講演

平成29年6月24日(土)

平成29年6月24日(土)、「2年3ヶ月を駆け抜けた重い障害を持つ子との日々」をテーマに、佐々百合子氏(「NAOのたまご」代表)の公開講演会を開催致しました。NAOのたまごは、障がい児者とその家族を直接的に支援する「障がい児者支援事業」、障がい児者やその家族の想いを伝えることに繋がる「チャレンジド・プロジェクト」、健常者と障がい者が出逢い、共感しあう場を提供する「健常者障がい者交流事業」という3つの柱で活動しております。教員・学生・一般の方々合わせて251名が参加し、障がいをもつこどもの支援を考える貴重な機会となりました。



卒業生の声

「介護予防事業に携わって思うこと」

松村 奈美／作業療法学専攻2期生



私が一般介護予防通所事業に携わるようになって4年目になります。作業療法のフィールドとしては前例も少ないので、毎日アイデアを捻り出して事業を見直しつつ運営するような状態が今も続いています。

介護予防事業に携わり始めた頃は、個人に対して「治療」として関わろうとしてしまい、何度も失敗をしました。ちょっと不便に感じていることはあるけど、何とか地域で生活できている人に対する介入は、思った以上に難しいものでした。まずは個人を取り巻く環境を知ろうと思い、自分で様々な場所に向いたり、同僚などに話を聞いたりしながら地域評価をした上で、利用者との面談を重ねていきました。そうすると少しずつ地域課題や個人課題が見えてきて、ある程度の方向性を見出していくことが出来ました。そして、プログラムも集団を意識しながら、多彩なアクティビティを取り入れるなどして従来の体操のみの関わりから少しずつ方向転換した結果、利用者の主体性が上がって出席率が伸びたことで、予防効果も上がっていると感じています。しかし、この3年間は介護保険の改変に伴い介護予防の事業自体が大きな見直しを迫られ、事業の存続の危機に何度も直面し、せっかく見えてきた方向性を具現化する歩みは一進一退でした。

地域に出ると作業療法士の知名度の低さを痛感します。その中で、作業療法士としてのアイデンティティを保持しつつ、自分らしい仕事ができるようにこれからも頑張っていきたいと思います。

「近況報告」

久保村 竜輔／理学療法学専攻2期生

信州大学を卒業してから松本市内の相澤病院へ就職し9年、地元である栃木県を離れ15年となりました。同じ信州大学保健学科に在学していた妻との間には2人の子供に恵まれ、人生の半分近くを松本市で過ごしたことになります。冬の寒さは厳しいですが年を追うごとに松本のよさを感じます。



さて近況報告ですが入職以来部署をローテーションし、現在は脳卒中超急性期病棟であるStroke Care Unitの専任理学療法士として勤務しています。当院は脳卒中患者の離床開始基準を定め、医師と連携し安全性を担保したうえで早期離床を実施しており、多くの場合入院当日か翌日にリハが開始されます。よって、患者さんは急激な変化に精神的ストレスを受け、落ち込み、ご家族は混乱と動揺を隠せない状態でリハを開始することになります。患者さんや家族の不安をできるだけ軽減しながら、今後の社会復帰にできるだけ早く、前向きに取り組んでいただく土台作りを意識しています。日々コミュニケーション能力の大切さを感じますが、信州大学での一般教養授業やオーストラリア留学研修、同窓生や先輩後輩方、教員陣との経験などが糧になっていると感じています。

また昨年度、脳卒中の認定理学療法士を取得しました。過去の症例を振り返り、科学的な根拠をもった治療、効果判定ができていのか見直すきっかけになりましたし、職場でも適切な評価により治療効果をデータとして残す動きが活発になってきました。

今後の課題としては、当院での取り組みや治療成果の報告を論文として形に残すこと、また日本城郭検定2級の取得を目指し、全国各地の城郭巡りに励みたいと思います。

「養護教諭として」

宮島 雅子／看護学専攻 アルプス会 11 回生

養護教諭になって30年がたとうとしています。私が養護教諭になったのは、子どもにかかわる仕事をしたかったことと、教育について実践的に学びたいと思ったからでした。

現在、養護教諭の職務は、平成20年の「中央教育審議会答申」に基づき、救急処置、健康診断、保健管理、保健教育、健康相談、保健室経営、組織的活動となっています。職務内容は幅広く、どこに重きをおいて職務を行うかは、学校のある地域の特性や学校規模、校種によって違いがあります。

ここ数年、発達上の課題を抱え、教室に入れない子どもとその保護者とのかかわりが多くなってきています。また、「障害者差別解消法」の施行に伴い、学校においても合理的配慮が求められるようになりました。その結果、医療的なケアが必要な子どもが地域の学校へ入学するようになってきました。子どもが抱える問題は多様で複雑になっていて、学校の中だけでは解決できないことが多くなっていきます。

こうした中、養護教諭は学校保健における「コーディネーター」としての役割が求められています。現在、教育機関だけでなく、医療や福祉と連携しながら、子どもたちの発達を支えています。どんな子どもも「安全」で「安心」して学校生活を送れるように、専門職として何をすべきかを考えながら働いていきたいと思っています。

「卒業してからの6年間」

吉澤 清司／検査技術科学専攻 6 期生



私は信州大学を卒業して今年で6年目になります。今回、卒後の歩みというテーマで原稿依頼をいただきましたのでこれを機会に振り返ってみようと思います。

私は信州大学卒業後、信州大学大学院に進学しました。病態解析診断学講座に所属し、先端細胞治療センターで技術補佐員として勤務しながら、修士取得を目指しました。昼間は細胞の培養や検査などの業務を行い、夕方以降や休日に論文を読んだり実験を行ったりという生活を送っていました。2年間という短い期間でしたが内容が濃く、非常に身になる大学院生活だったと思います。

修士取得後、地元の総合病院に就職しました。2年間血液・一般検査を担当し、その後現在では輸血検査業務に主に携わるようになりました。当直に入り始めた頃緊急大量輸血で大変な思いをしたことがあり、その経験から少し輸血に対して腰がひけている部分がありました。しかし今では臨床からの問い合わせや要望にうまく応えて患者さんに適した輸血医療を提供することにやりがいを感じています。また、今年に入ってから自己末梢血幹細胞移植を再開したのに伴い、輸血検査室の業務の一部として幹細胞の保存も担うようになりました。現在の職場に勤めて今年で4年目ですが、だんだんとできることが増えてやりがいや大変さを感じながら仕事をしています。

最後に在校生の皆様、大学生活で大変なこともあるかと思いますが今の経験が今後必ず将来の自分の役に立ちます。頑張ってください。

総会記録

平成28年度 信州大学医学部 保健学科同窓会総会 議事録

日 時:平成29年6月24日(土曜日) 15:15から16:15

場 所:旭総合研究棟 9階講義室A/B 出席者:25名

1. 保健学科同窓会長挨拶
川上由行保健学科同窓会長より開会の挨拶があった。
2. 保健学科同窓会名誉会長(金井誠保健学科長)挨拶
金井誠保健学科学科長が不在のため藤本圭作保健学科学科長補佐よりメッセージが代読された。
3. 議長選出
アルプス会副会長 赤羽公子氏が選出された。
4. 平成28年度事業報告および決算報告
下里誠二幹事より平成28年度事業報告がされた。
柳澤節子幹事より平成28年度決算について報告された。
5. 平成28年度記念事業特別積立金・地域保健設置積立金
柳澤節子幹事より報告された。
6. 平成28年度会計監査報告
務台均監事より会計監査報告がなされ「通帳、帳簿、証拠書類を監査し適正に処理されていたことを確認した」と報告があった。
議案4, 5, 6について特に質疑なく挙手多数により可決承認された。
7. 平成29年度会費納入状況報告書
柳澤節子幹事より会費納入状況について報告があった。
8. 平成29年度事業計画および予算(案)
下里誠二幹事より平成29年度事業計画(案)について、柳澤節子幹事より平成29年度予算書(案)について説明があった。
議案7, 8について
医学科の同窓会では優秀な論文等に対して表彰している。保健学科同窓会でも検討してはどうかという意見があった。これに対し川上会長から予算等の問題もあるが総合的に勘案し幹事会の中で討議しながら早期に実現できるように検討し総会で提案していくという方向にもっていきたいと回答がなされた。
質疑なく挙手多数により可決承認された。
9. その他
役員改選について
副会長及び会計監査が任期満了となるため本会で決定することとなった。
副会長については信州大学医学部付属病院リハビリテーション部高田明子氏が推薦され賛成多数で副会長に決定した。高田明子氏から挨拶があった。
会計監査については信州大学医学部保健学科三好圭氏が推薦され賛成多数で承認された。
10. 議長解任

平成28年度事業報告

1. 在校生の教育支援及び保健学科の運営補助
 - 1) 学生図書購入
 - 2) 学術国際交流推進
(オーストラリアのカーティン大学のプログラムと、シンガポールのシンガポール総合病院のプログラム、ネパールでの保健医療活動プログラム)
 - 3) 特別講演の開催
 - ・平成28年度 保健学科同窓会特別講演
 - 期 日：2016年6月26日（日曜日）13:00～15:00
 - 会 場：信州大学旭総合研究棟9階講義室A/B
 - 講 師：尾角光美氏（一般社団法人 リヴェオン代表）
 - テーマ：「なくした人とつながる生き方 ～死別の悲しみから希望を紡ぐ～」
 - 4) 実習指導者連絡協議会開催補助
 - 5) 卒業式・学位記授与式
 - ・祝賀会補助
 - ・卒業記念品の贈呈（集合写真）
 - ・竹内松次郎賞記念楯（優秀学生表彰）
 - 6) 入試広報活動補助
 - ・オープンキャンパス補助
 - ・各特別選抜試験および一般選抜試験補助
 - 7) 学生課外活動支援
 - ・新入生合宿研修補助
 - ・学生への課外活動支援
 - 8) 学習環境整備
 - ・学生支援
 - 看護学専攻 アネロイド血圧計、万能型看護実習モデル
 - 経皮ビリルビン濃度測定器黄疸計、回診車他
2. 保健学科同窓会分科会支援
 - 1) 看護学専攻……………アルプス会・桐の木会
 - 2) 検査技術科学専攻……………臨嶺会
 - 3) 理学療法学専攻・作業療法学専攻…州嶺会
3. 保健学科同窓会の運営について
 - 1) 同窓会ホームページの運営
 - 2) 同窓会だより第14号の発行
 - 3) 同窓会総会および役員会の開催
 - ①平成28年度総会の開催
 - ・平成28年6月26日(日)15:15～16:15 旭総合研究棟9階 講義室A/B
 - ②理事会の開催
 - ・平成29年6月7日(水)18:00～20:00 保健学科中校舎2階会議室
 - ③幹事会の開催
 - ・平成29年2月22日(水)17:00～19:00 保健学科ゼミ室Ⅱ
 - ・平成29年3月13日(月)17:30～19:30 保健学科ゼミ室Ⅱ
 - ・平成29年5月16日(火)17:30～19:30 保健学科ゼミ室Ⅱ
 - 4) 同窓会事務局の運営
 - 5) 信州大学同窓会連合会との連携
 - ①2016年7月2日
 - ・信州大学同窓会連合会役員会 旭会館3階中会議室（川上同窓会長）
 - ・信州大学校友会理事会 旭会館3階中会議室（川上同窓会長）
 - ②2017年2月18日
 - ・信州大学同窓会連合会第23回役員会
 - 信州地域技術メディカル展開センター「CISMIT」1階（川上同窓会長）
 - 6) 信州医学振興会支援

平成29年度事業計画

1. 在校生の教育支援及び保健学科の運営補助
 - 1) 学生図書購入
 - 2) 学術国際交流推進
(オーストラリアのカーティン大学のプログラムと、シンガポールのシンガポール総合病院のプログラム)
 - 3) 特別講演の開催
 - 4) 実習指導者連絡協議会開催補助
 - 5) 卒業式・学位記授与式
 - ・祝賀会補助
 - ・卒業記念品の贈呈 (集合写真)
 - ・竹内松次郎賞記念楯 (優秀学生表彰)
 - 6) 入試広報活動補助
 - ・オープンキャンパス補助
 - ・各特別選抜試験および一般選抜試験補助
 - 7) 学生課外活動支援
 - ・新入生合宿研修補助
 - ・学生への活動支援
 - 8) 学習環境整備
 - ・学生支援
理学療法学専攻・作業療法学専攻
 - 9) 卒業生を迎えるの懇談会開催支援

2. 保健学科同窓会分科会支援
 - 1) 看護学専攻……………アルプス会・桐の木会
 - 2) 検査技術科学専攻……………臨嶺会
 - 3) 理学療法学専攻・作業療法学専攻…州嶺会

3. 保健学科同窓会の運営について
 - 1) 同窓会ホームページの運営
 - 2) 同窓会だより第15号の発行
 - 3) 同窓会総会および役員会の開催
 - ①平成29年度総会の開催
平成29年6月24日(土) 15:15～16:15 旭総合研究棟9階 講義室A/B
 - ②理事会の開催
年1回(5～6月)
 - ③幹事会の開催
 - 4) 同窓会事務局の運営
 - 5) 信州大学同窓会連合会との連携
 - 6) 信州医学振興会支援

同窓会役員

名誉会長：金井 誠（医学部保健学科）
会長：川上 由行（医学部保健学科）
副会長：高田 明子（医学部付属病院）
理事：看護学専攻8名
中西美佐穂（医学部付属病院）
赤羽 公子（医学部付属病院）
茅野 郁子（医学部付属病院）
小林美恵子（医学部付属病院）
三輪百合子（長野県看護協会）
坂口けさみ（医学部保健学科）
坂崎 美穂（看護学専攻学生）
戸村 愛（看護学専攻学生）

検査技術科学専攻4名
後藤 有希（検査技術科学専攻学生）
赤羽 貴行（安曇野赤十字病院）
新井 慎平（医学部付属病院）
樋口由美子（医学部保健学科）
理学療法学専攻2名
綾城 穂高（理学療法学専攻学生）
杉田 勇（諏訪中央病院）
作業療法学専攻2名
宇田川佳葉（作業療法学専攻学生）
井戸 芳和（医学部付属病院）

大学院（前期）1名
金井 峻（博士前期課程院生）
大学院（後期）1名
黒部 恭史（博士後期課程院生）
幹事：奥村 伸生（医学部保健学科）
下里 誠二（医学部保健学科）
柳澤 節子（医学部保健学科）
百瀬 公人（医学部保健学科）
横川 吉晴（医学部保健学科）
監事：中野美奈子（長野県看護協会）
三好 圭（医学部保健学科）
事務局：中山 秀子

信州大学医学部保健学科同窓会会則

信州大学医学部保健学科同窓会会則

第1章 総則

- 第1条 本会は、信州大学医学部保健学科同窓会（以下「本会」という。）と称する。
- 第2条 本会は、事務局を松本市旭3丁目1番1号 信州大学医学部保健学科内に置く。
- 第3条 本会は、会員相互の親睦を図るとともに、母校との連携を保ち、その発展に寄与することを目的とする。
- 第4条 本会は、前条の目的を達成するために、次の事業を行なう。
- 一 会員の親睦及び研修に必要な事項
 - 二 母校の発展に関する事項
 - 三 その他必要と認められる事項
- 第5条 本会は、必要に応じて各専攻等を単位とする分科会を置くことができる。
- 2 分科会の設置及び運営に関する事項は、理事会の承認を経て各分科会が定める。

第2章 会員

- 第6条 本会の会員は次のとおりとする。
- 一 正会員
 - イ 信州大学医学部附属助産婦学校、信州大学医学部附属衛生検査技師学校、信州大学医学部附属臨床検査技師学校の卒業生
 - ロ 信州大学医療技術短期大学の卒業生
 - ハ 信州大学医学部保健学科（以下「本学科」という。）の在学生及び卒業生
 - 二 信州大学大学院医学系研究科保健学専攻博士前期課程及び後期課程（以下「本大学院」という。）の在学生及び修了生
- 二 特別会員
- イ 本学科教員
 - ロ 本学科元教員
 - ハ 前項以外の者で理事会の承認を得た者
- 第7条 会員が死亡または会員たる資格を喪失したときは、退会したものとみなす。
- 第8条 会員が、本会の名誉を傷つけ、または本会の趣旨に反する行為をしたときは、総会において出席会員の4

分の3以上の議決により、これを除名することができる。

- 第9条 正会員は、細則に定める会費を入学時に納入するものとする。また、3年次編入生については編入時に4万円納入するものとする。ただし、退会または除名された会員が既に納入した会費その他の拠出金は返還しないものとする。

第3章 役員等

- 第10条 本会に次の役員を置く。
- 一 会長 1名
 - 二 副会長 1名
 - 三 理事 18名
（看護8名；検査4名；理学2名；作業2名；
大学院生博士前期課程1名、後期課程1名）
 - 四 幹事 若干名
 - 五 監事 2名
- 第11条 役員は、次の職務を行なう。
- 一 会長は、本会を代表し、会務を総括する。
 - 二 副会長は、会長を補佐し、会長に事故あるときはその職務を代行する。
 - 三 理事は、会員の代表として本会の運営に当たる。
 - 四 幹事は、本会の実務に当たる。
 - 五 監事は、本会の会計を監査し、総会に報告する。
- 第12条 役員は、次により選出又は委嘱する。
- 一 会長は、総会において正会員の中から選出する。
 - 二 副会長は、会長が正会員の中から推薦し委嘱する。
 - 三 理事は、正会員の中から各専攻毎に選出し委嘱する。
 - 四 幹事は、会長が委嘱する。
 - 五 監事は、総会において正会員の中から選出する。
- 第13条 役員は、2年とする。ただし、再任を妨げない。
- 2 補欠による役員は、前任者の残任期間とする。
 - 3 役員は、任期が満了しても後任者が就任するまではその職務を行なうものとする。

第4章 名誉会長及び顧問

- 第14条 本会に名誉会長を置き、本学科の学科長を推戴する。
第15条 本会に顧問を置くことができる。顧問は、総会の議を経て会長が委嘱する。
2 顧問は、重要事項について会長の相談に応ずる。

第5章 会議

- 第16条 総会は、原則として毎年1回開催し、次の事項を審議決定する。
一 事業及び決算報告
二 事業計画及び予算
三 会則の制定及び改廃
四 役員を選出
五 顧問の推挙
六 その他の必要事項
2 会長は、総会を召集し、理事会の議を経て前項に定める事項を提案する。
第17条 会長は必要と認めるとき、臨時総会を開催することができる。
第18条 総会の議長は、出席会員の中から選出する。
第19条 総会は、日時、場所、付議すべき事項等を示して召集する。
第20条 総会に出席できない会員は、あらかじめ文書をもって意見を表示することができる。

- 第21条 総会の議事は出席会員の過半数で決し、可否同数のときは議長がこれを決する。
第22条 総会は、議事録を作成し、これを保存する。
第23条 理事会は、会長、副会長、理事及び幹事によって組織する。
第24条 理事会は、会長が必要と認めるとき、又は理事の5分の2以上の要求があったときに開催する。
第25条 理事会は、会長が召集し、議長となる。
第26条 理事会の議事は、出席者の過半数で決する。
第27条 理事会は必要に応じて委員会を置くことができる。

第6章 会計

- 第28条 本会の経理は、会費及び寄付金その他の収入をもって充てる。
第29条 本会の会計年度は、毎年4月1日から始まり翌年3月31日に終わる。

附 則

- この会則は、平成15年4月1日から施行する。
この会則は、平成16年4月1日から施行する。
この会則は、平成19年4月1日から施行する。
この会則は、平成21年4月1日から施行する。

信州大学医学部保健学科同窓会会計細則

- 同窓会費は6万円とし、本学本学科入学時に一括納入することを原則とする。また、3年次編入生及び修士大学院生については、編入時もしくは大学院入学時に4万円を納入するものとする。ただし、本人からの申し出があった場合は、同窓会理事会が分割払いを認めることができる。
- 本学科同窓会費6万円の使用内訳は、次のとおりとする。ただし、この枠を越えて使用する必要が生じたときは、同窓会理事会の承認を必要とする。
 - 在校生の教育支援及び医学部保健学科の運営に関すること。……………3万円
 - 保健学科同窓会分科会(各専攻単位)の運営に関すること。……………2万円
 - 医学部保健学科同窓会としての運営に関すること。……………1万円また、3年次編入生、博士前期課程及び博士後期課程の大学院生の同窓会費4万円の使用内訳は、次のとおりとする。ただし、この枠を越えて使用する必要が生じたときは、同窓会理事会の承認を必要とする。
 - 在校生の教育支援及び医学部保健学科の運営に関すること。……………1万5千円
 - 保健学科同窓会分科会(各専攻単位)の運営に関すること。……………2万円
 - 医学部保健学科同窓会としての運営に関すること。……………5千円保健学科同窓会会員が博士前期課程および博士後期課程に入学した場合は、(1)在学生の教育支援及び医学部保健学科の運営に関して1万5千円を納入すること。
- 金融機関への振込手数料は、会員の負担とする。
- 幹事代表者名で金融機関に同窓会の口座を設け、会計担当幹事が通帳・印鑑を管理する。
- 同窓会費の徴収は、入学時に行ない、徴収後は速やかに同窓会費支払者リストを作成する。
- 会計担当幹事は、会計年度終了後に速やかに決算報告書を作成し、監査を受ける。
- 本細則の改正は、同窓会総会で行なう。

附 則

- この細則は、平成15年4月1日から施行する。
この細則は、平成16年4月1日から施行する。
この細則は、平成19年4月1日から施行する。
この細則は、平成21年4月1日から施行する。

編・集・後・記

この夏、TVニュースで大林宣彦監督の新作映画を紹介していました。大林監督は本年末に公開予定の映画「花筐」を作成していました。インタビューのなかで「本当に好きなんだ、若い人は。未来だから。僕の未来でもあるんだから。若者はちゃんとこたえてくれる。」とおっしゃっていました。映画産業を担う次の世代にたくさん伝えたいことがある様子がわかりました。肺がんで闘病しながら、製作活動に励む姿は一生懸命でありました。同窓会の役割もまた、保健医療の未来を作ってゆく同窓会員の皆様を誠実に支援するのだと思いはせた次第です。

(編集人Y)